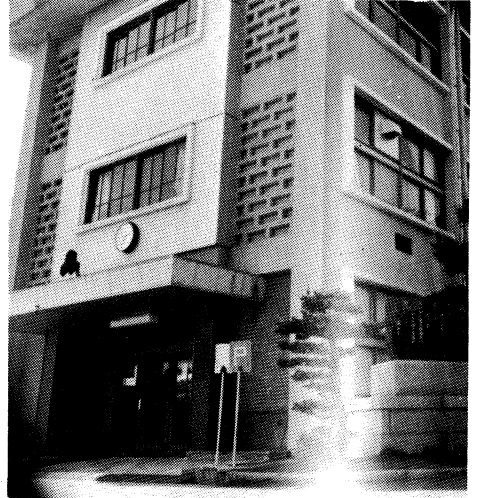


福島県立湯本高等学校

▼校歌碑



校舎正面▶



三年

岩瀬 薫

「佐波古のむかし、神さびて——」
にはじまる、山田耕伴作曲の校歌も、
うたい継がれて四十年になろうとして
いる本校は、昭和十七年に湯本実科高
等女学校として開校された。昭和二十
三年、学制の改革で男女共学の湯本高
等学校となり、現在は、生徒数千三百
九十名あまり各学年十クラス編成の大
規模校に発展している。

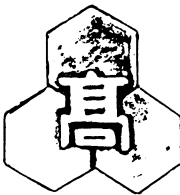
昭和三十九年に火事で木造旧校舎が
全焼、その前年から、現在の、湯の岳
を背にする丘の上の鉄筋校舎に移転が
始まっていたが、この地を私たちはさ
はの丘と呼ぶ。緑が多く、周囲の山
の色あいに季節の美しさがあふれ、さ
はこの丘は今もゆたかな自然に恵まれ
ている。さわやかな緑につつまれた学
舎（まなびや）は校庭や校内の諸施設
にも恵まれている。ソフトボール競技
場四面がとれる広いグラウンド、四面
のテニスコート、新設のプール、グラ
ウンドの一角に体育館と格技場、その
わきに宿泊施設の整った同窓会館、そ
して、一段高いところに三階建の校舎
四棟がならび、最近まあたらしく理科
棟が完成した。

放課後、広いグラウンドに運動部の
生徒の元気な声がひびく。野球・ソフ
トボール・サッカー・陸上競技・テニ

ス・水泳など、部員は連日練習にはげ
んでいる。体育館や格技場も各部の若
い力が躍動する。そしてその成果は、
毎年県大会や東北・全国大会で発揮さ
れている。文化部の活動もさかんであ
る。学業と部活動のバランスは容易で
はないが、本校生は実りある高校生活
をめざして努力している。

生徒会行事の幅もひろい。毎年一学
期に行われる校内球技大会は、生徒の
希望が実現して、昨年から二日にわた
って実施されている。本校生の卒業時
の進路は、時勢を反映してさまざまだ
が、進学も就職も、学校生活にふさわ
しい成果がみられ、一層の飛躍が期待
される。卒業生一万二千余名、先輩の
きずいてきた伝統の発展は本校に学ぶ
私たちの歩みにかかっている。

生徒会のスローガンは「自主性と協
力」である。さはこの丘は今、緑が美
しい。



(校長・沖野明夫・生徒数 1,392名)

ぼくの学校わたしの学校